加藤幸純・萩森喬至・西田友亮

１．教科として大切にしていること

社会科は平和と民主主義を教える教科である（市川，2010：p.147）。今日の世界の情勢を見れば，社会科の重要性は増しているといえるだろう。それらの社会認識を基盤とし，現代社会に表出する諸課題を協働的に解決していこうとする公民的資質を身につけさせることが社会科に求められている。これについては，本校社会科の 1974 年以降の研究の方向性として以下のように示されてきた（三重大学教育学部附属中学校，2018）。

ｉ．生徒一人ひとりが社会的事象に対して，主体的に問題を持ち，それを解決することを繰り返す中で，その生徒の論理（ものの見方，考え方，感じ方）を高めていく授業にすること。
ⅱ．生徒が対峙した社会的事象の本質を見抜くとともに，それを何度も繰り返す中で自己をつくりあげ，将来のよりよい社会人となるための基礎を養うこと。

急速に変化し，情報があふれる現代に生きる生徒たちにとって，すでに社会的事象における諸課題のいくつかは身近に直面してきている。その中で，子どもが切実になって追究するようになる問題を取り上げ（山根，2010：p.8），その諸課題の根底にある様々な要因に目を向けて，多面的・多角的に考えさせることで，よりよい社会人として持続可能な社会の実現に向けて，協働的に解決していこうとする公民的資質を身につけさせることを目指したい。

２．教科研究のあゆみ

これまでの本校の研究は以下のようにすすめられてきた。

本校の研究テーマについて	研究テーマと社会科のかかわり
第 29 次研究テーマ　2017～2018 年度 社会の変化に対応できる生徒の育成 サブテーマ 対話的な学びを通じて資質・能力が伸びる授業	・生徒が主体的になれる授業を大切にするとともに,「考える力」に関わるパフォーマンス課題とルーブリックを関連させた授業開発を行った。 ・「対話的な学び」について,「聞く力」の育成を基盤とした話し合い活動を資質・能力の育成の手だてとした。
第 30 次研究テーマ　2019～2020 年度 社会の変化に対応できる生徒の育成 サブテーマ SDGs を核に資質・能力が伸びる取組をめざして	・質問紙調査をおこない「子どもの問い」をもとにした発問や発言を重視した授業開発・実践を行った。 ・SDGs の要素を授業に取り入れて，STEP への資質・能力の発揮を図った。

資質・能力の捉え方や研究の重点に変化はあるが，「個を育てる授業」を意識した取組がなされてきた。「個を育てる授業」とは，子どもを社会事象に直接対峙させるとともに，社会事象に対する一人ひとりの子どもの観点・目の付け所，社会事象に対する考え方・論理，あるべき社会の姿とその実現方法についての意見の違いが尊重される（無視されない）ということである（山根，2010：p.7）。

また，前次研究では以下の二つを研究の目的として設定された。

①　「子どもの問いから始まる授業」を前提条件にして，社会科での学びと STEP での活動が往還されるような授業開発・実践を行う。 ②　各教科における学習内容の進捗状況や取組内容を把握しながら，「資質・能力の伸び」が達成できるような授業開発・実践を行う。

前時研究の成果と課題として，子ども自らが STEP の視点から問いを出し，話し合いを行う様子が見られた一方で，STEP の時間において社会科の学びがどこまで出たのかという点で，コロナ禍の時間不足により分析が充分できなかったということが挙げられている（三重大学教育学部附属中学校 2020）。本次研究においても，これまでの社会科で研究が重ねられてきた「個を育てる授業」を継続しつつ，STEP に社会科での学びが発揮されるよう取り組み，STEP との往還を意識した資質・能力の育成を図っていく。

３．資質・能力の育成を図る手立て

（１）８つの資質・能力と社会科

社会科は 8 つの資質・能力との親和性が高い。社会科のどの分野・単元においてもほとんどの資質・能力と切って離すことができない。例えば，授業においては，具体的な場面をイメージしやすいように写真などの資料から入って，誰もが参加しやすい環境を作ることが多い。その資料から気づいたことや意見を出し合う場では，自分自身の考えや他者の発言について本当にそうなのかと【じっくり・いろいろ】批判的に考えたり，そこから生まれるズレに気づいたりする【問題発見】といった資質・能力が発揮される。そして，そのズレを出発点にして課題を設定し，話し合い活動をおこなうことで，生徒の【アイディア】を引き出し，【問題解決】に向けてさらに深く社会的事象を見ていくことができる。これらを繰り返し，深める上で，なぜそういえるのかという【根拠】は欠かすことができない。毎時間の【振り返り】では，生徒自身がどのように社会的事象を捉え，変容したかを見つめさせたい。この一連の活動において【協働】や【伝達・発信】は必須である。しかし，各時間内での一つ一つの活動で資質・能力を意識することに加え，教師が単元を構成する際に，これらをどのように位置づけ，評価していくかによって，生徒の力の伸び具合には大きな差が生まれると考える。そのため，発達段階に応じて，1 年生の初めは資料の読み取りや話し合いの中で資料やデータに基づいているかといった【根拠】を重点に置くなど，各学年や学習時期などに合わせて，どの資質・能力の伸長を図っていくのか，生徒の【振り返り】などをもとに進めてきた。

平成 29 年版学習指導要領に示された社会科各分野の見方・考え方を用いて，具体から抽象へと課題の捉え方を変化させていくことで，生徒の考えの足場を作りながら，段階を踏んで資質・能力を育成していくことができると考える。

また，ロイロノートの共有などを活用することにより，子どもたち自身で話し合って授業の問いを立てる課題設定の機会をつくることや，教師が生徒の考えの変容をつかみやすくして生徒の実態に合わせ，資質・能力の育成を図る手立ての一つとしたい。

（２）STEP とのつながり

社会科の学習で身につけられる資質・能力は，直接的に STEP に生かすことができるものが多い。

内容面でのつながりを分野ごとに見てみると，地理的分野においては世界や地域を考えていく中で，環境の視点から現地の人々の生活を通して社会的事象を具体的に捉えていくことができる。また，歴史的分野では公害などの過去の事例をもとに現代の SDGs に対する考えを深めていくことができる。このように，社会科は SDGs の取組が教科の内容面と直接的にリンクする部分が多く，STEP で身についた知識や社会的課題を多面的・多角的に見る力が発揮されやすい。特に，公民的分野における「対立と合意」「効率と公正」「個人の尊重」などの視点を用いることで，現代社会にある諸課題を様々な点で SDGs の目標と絡め，STEP の研究を様々な角度から考えることができる。公民的分野は目標として，よりよい社会を目指すため現代社会にみられる課題に対して主体的に関わろうとする態度の育成が求められるため，STEP の学習での研究に向けた姿勢と双方向に影響させることができると考える。

行動面でのつながりを見ると，社会科の授業の中でお互いに意見を出し合い，新しいアイディアや気づきを得る経験から，STEP の研究における根拠のある論理的な検証，仲間と協働して研究に取り組む姿勢，そして批判的思考力をグループ内活動や発表をとおして発揮させていくことができる。各分野の見方・考え方を大切にしつつ，SDGs の視点を取り入れた内容にすることで，学習で得た知識や考え方を STEP の取組に反映させ，新たに疑問に感じたことを追究していけるよう促していく。STEP と社会科は，どちらにおいても，課題を設定してそれを追求していくという学習活動の形態は同じで，テーマは違えども同じような活動を行っている。そのため，STEP での取組が社会科に表れる場合は，行動面において社会科から STEP への場合と同様になるはずである。このことは社会科と STEP の往還的な学習が反復的に進められる証拠ともいえる。この部分から見ても STEP と社会科のつながりの強さが見て取れる。

４．実践例

（１）主題（単元・題材）名　　「私たちが生きる現代社会の特色」

（２）目標

①現代日本の特色について少子高齢化，情報化，グローバル化などが見られることについて理解する。

〔知識及び技能〕

②位置や空間的な広がり，推移や変化などに着目して，少子高齢化，情報化，グローバル化などが現在と将来の政治，経済，国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し，表現する。

〔思考力，判断力，表現力等〕

③私たちが生きる現代社会の特色について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。　〔学びに向かう力，人間性等〕

（３）単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む力
・現代日本の特色として少子高齢化，情報化，グローバル化など	・位置や空間的な広がり，推移や変化などに着目して，少子高齢化，情報化，グローバル化などが	・私たちが生きる現代社会の特色について，現代社会に見られる課題

が見られることについて理解している。	現在と将来の政治，経済，国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し，表現している。	の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

（４）STEP との関わり

①社会科としてのとらえ

社会科では，地理的分野・歴史的分野においては世界や地域を考えていく中で，環境の視点から現地の人々の思いを通して事象を具体的に捉えていくことができる。また，公害などの過去の事例をもとに SDGs に対する考えを深めていくことができる。これらの学習してきた内容を STEP での取組に活用したり，STEP で研究したことを授業に発揮したりしていくことに期待したい。

公民的分野では，平成 29 年版学習指導要領において，地理的分野・歴史的分野で学習した事柄を踏まえて，よりよい社会を目指すため現代社会にみられる課題に対して主体的に関わろうとする態度の育成が求められる。STEP の学習での研究に向けた姿勢と双方向に影響させることができると考える。

②育成したい資質・能力について

これまでも社会科では【根拠】を基に自分の意見をまとめ，発表などを通して【伝達・発信】することを大切に授業づくりをしてきている。本単元でも，【根拠】【じっくり・いろいろ】【アイディア】【問題発見】【問題解決】【振り返り】の 6 つの資質・能力は各学習活動を通して育成を図っていく。それぞれの時間で育成する資質・能力については「(5) 指導について」で詳細に記述していく。また，【伝達・発信】【協働】は単元全体においてグループ活動や全体交流を通して育成を図っていく。

（５）指導について

第 1 時では，マシュマロタワーチャレンジという活動を通して，班で【協働】し，それぞれの【アイディア】を出し合いながら，高いタワーの作成を目指す。高いタワーを作るために重要なことを【ふり返り】していくなかで，対立と合意，効率と公正，希少性，分業と交換など公民の見方考え方を意識できるよう指導していく。

第 2 時では，「現代社会の日本」についてウェビングマップを作成し，本単元へのイメージを持たせる。ウェビングマップの作成に対して【じっくり・いろいろ】考え，さまざまな面から考察させる。その中から課題と考えられるものを挙げさせ【問題発見】，第 3 時から第 5 時までのテーマにつなげる。

第 3 時（本時）では，情報化の中でも AI に焦点をあて，生徒にとって身近な教育分野及び今年度ニュース等で報じられている話題を取り上げる【問題発見】ことで「公民」をより自分事として捉えて，課題について考察させる【問題解決】。

第 4 時では，少子高齢化による公共施設の存続，その中でもより多くの世代に関わる病院について焦点をあてる【問題発見】。少子高齢化に伴う医療への需要の増加に対して，労働供給の減少のアンバランスな状態について考察する【問題解決】なかで，各世代に関わる問題として，多角的に捉えるように指導していく。

第 5 時では，特に第 4 時とのつながりを意識しながら，少子高齢化の進行による日本の将来的な労働力不足を外国人労働者で補うことの是非について考察させる【問題発見】【問題解決】。海外の移民政策などと比較しながら，より多面的多角的に捉える力の育成を図る。

第 6 時では，第 3 時から第 5 時までの内容を【振り返り】ながら，第 2 時で挙がった他の特色や課題に

ついて，自らの興味関心がある事象を選択し，よりよい社会の構築という観点から，自分たちにできることは何かを考察していく。

（６）指導と評価の計画（全６時間）

時間	□ねらい　■学習活動	評価の観点			評価方法	育成したい資質・能力
		知	思	態		
第１時	□マシュマロタワーチャレンジを通して，対立と合意，効率と公正といった公民分野の見方考え方について分かる。 ■どうすれば班で高いタワーが建てられるだろう。	●		●	●振り返りシート	【ア】 【協】
第２時	□ウェビングマップの作成を通して，現代社会の特色や課題について考える。 ■現代社会の課題は何だろう。		●	●	●振り返りシート	【じ】 【発】
第３時 （本時）	□教育分野に AI を導入することについて考える。 ■中学生の AI 使用に制限をかけることについてどう考えるか。		●		●振り返り（ロイロノート）	【発】 【解】
第４時	□少子高齢化の中で，病院の統廃合の是非について考える。 ■病院の統廃合は仕方ないか，対策が必要か。	●	●		●振り返り（ロイロノート）	【発】 【解】
第５時	□外国人労働者が少子化による労働力不足を補うことについて考える。 ■医療従事者に，外国人労働者を増やすことに賛成か反対か。	●	●		●振り返り（ロイロノート）	【発】 【解】
第６時	□現代社会の課題に対して，自分たちと社会との関わりについて考える。 ■課題解決のために，どんなことができるか。		●	○	○振り返り	【振】

※育成したい資質・能力の表記は省略した名称で記述している。

根拠　⇒　【根】，じっくり・いろいろ　⇒　【じ】，　アイディア　⇒　【ア】

問題発見　⇒　【発】，　問題解決　⇒　【解】，　振り返り　⇒　【振】

協働　⇒　【協】，　伝達・発信　⇒　【伝】

（７）本時の指導

①目標

・ChatGPT の教育分野での利用について多面的・多角的に考察することができる。

〔思考力，判断力，表現力等〕

②指導計画（50 分）

学習活動	○指導上の留意点　　◆評価	育成したい資質・能力
1. 学校の中で ChatGPT をどのような利用ができるか考える。 ＜予想される生徒の発言＞ ・先生のテストづくり。 ・パフォーマンス課題に使う。 ・保護者への手紙	○生徒だけでなく，教師や管理職などさまざまな関係者を意識させる。 ○生徒と教師それぞれの立場に分けて板書を行う。 ○利用の例が少ない場合は，適宜資料を提示する。 ○文科省が AI の使用に関するガイドラインをまとめていることについてのニュース記事を提示し，主発問につなげる。	【ア】
【課題】　中学生の AI 使用に制限をかけることについてどう考えますか？		
2. 学生の AI の使用制限について，学級全体で話し合う。 ＜予想される生徒の発言＞ ・学生だけが使用制限されるのはおかしいと思う。 ・使わないと何事も使えるようにならない。 ・早くから AI などの技術を身につけないと世界から後れを取る ・さまざまな分野で AI が活用されているのだから，早くから使用してその技術を高めた方が良い。 ・AI に文章を作ってもらうことに慣れてしまうと，自分で文章を作る力が伸びなくなってしまう。 ・考えるという行為を AI に任せてしまうため，自分で考える力がなくなる。 ・著作権の問題などがあるため使用には慎重にならなければいけない。	◆主発問について，個人で考える時間をとる。その後全体で交流する。（思） ○関連する発言や対立する発言を線で紐づけ，視覚化していく。 ○使用制限に否定的な意見が集まった場合は，どうして文科省は制限をかけようとしているのか問い返す。 ○使用制限に肯定的な意見が集まった場合は，どうして文科省は禁止しようとしているわけではないのか問い返す。 ○必要があれば，タブレットなどで根拠となるデータを探させる。	【発】 【解】
3. AI との付き合い方について考える。	◆「今後，　AI とどのように付き合っていったらいいだろう？」という問いについて，展開 2 での意見も含めて，個人の考えを記入させる。（思）	【振】

５．成果と課題

昨年度末の研究部のアンケートにより，生徒の記述から STEP の学習から社会科へのアプローチが見えてきている。以下は昨年度 1,2 年生の「STEP から社会科の授業に学んだことを生かせる」と回答した 114 人のアンケート結果をまとめたものである。なお，内容が重複するものは省いた。

	８つの資質・能力にかかわる視点について
【根拠】	・根拠を持って社会問題について考えるとき ・なぜそう思ったのか，自分の根拠を説明するとき ・自分なりの根拠を持って意見を出すとき ・問題に対して，学んだことを根拠に情報を集め，自分の意見としてまとめるとき ・グラフや図から必要なことを読み取るために多角的に考えるとき
【じっくり・いろいろ】	・資料から読み取れることをじっくり考えるとき ・授業中に，自分が考えた意見をどんどん深めていくとき ・授業中に，色々な視点で考えようとするとき ・「なぜそうなのか」をじっくりと考えるとき ・１つの物事について様々な角度から考えるとき ・状況や理由について，本当にそうなのかとじっくり考えるとき
【問題発見】	・問題を発見して，班で考えを深めるとき ・問題の原因が何なのかと考えるとき ・自分では思いつかなかった意見から自分の意見を再構築するとき
【振り返り】	・振り返りを書くとき
【協働】	・話し合って学習を深めるとき ・問いに対して協力して考えるとき
【伝達・発信】	・パフォーマンス課題のプレゼンテーションで，相手にわかり易く伝えようと考えるとき

アンケートからは【アイディア】や【問題解決】にあたる記述は見られなかった。各グループの研究の進み具合やそもそも解決の難しい研究内容がために往還にいたっていなかったことが考えられる。しかし，解決には至らずとも，自らの研究に粘り強く向かう姿は見られた。【根拠】【じっくり・いろいろ】についての記述が大半を占めているのはその結果であり，日頃から社会科の授業でも行ってきた資料やデータをもとに考え，批判的に検討したり，多面的・多角的に考えたりする力については往還ができてきているといえる。

STEP に社会科での資質・能力が発揮されたかどうかについては，今後時期をみてアンケートを実施する予定である。しかし，先述のアンケート結果からも分かる通り，社会科とのつながりを生徒たちが意識していることは間違いなく，社会科からの往還も少なからずあると考えられる。

学習内容にかかわる視点について	
・「人口集中」と結び付けて考えるとき	・環境問題の授業内容を学習するとき
・歴史や公害について学習するとき	・STEP で研究している内容を授業で学習するとき
・社会情勢について学習するとき	

STEP の内容が直接的に学習にかかわる視点での記述は，上の表の通りであった。アンケート時点では，

今後使えるであろうという予想にもとづいて書かれているため，具体的な場面には欠けていた。しかし，その後の社会科の授業においていくつか STEP からのつながりが見られた。以下はその場面である。

・自然災害と防災の学習時，被災者を助けるための流れと被災者が助かるための流れを考えさせた。その際，STEP で防災に関わる研究をしていたいくつかの班の生徒が，公助の流れを考える中心となっていたり，被災者が公助を受けるまでの自助の必要性を説いたりしていた。また，自助と共助の具体例を示している班もあり，学習が深まっていた。

・資源とエネルギーの学習時，再生可能エネルギーの研究をしていたいくつかの班の生徒が，一般的にあまり知られていない発電方法を紹介していたり，再生可能エネルギーの必要性と現段階での限界を伝えて，今後の方向性を考える中心となったりする様子が見られた。

アンケートの記述にあった「環境問題の授業内容を学習するとき」や「STEP で研究している内容を授業で学習するとき」と合致して，授業での発言・行動に表れたといえる。本年度の STEP における研究グループの内容は多岐にわたっていることも踏まえ，生徒各々が自身の研究に誇りを持ち，社会科の授業のあらゆる単元で主体的に学びに関わっていけるような手立てを講じていきたい。そのためには，どのような研究が進んでいるのか教師が把握しておき，具体的に発揮されそうな場面を設定していくことが必要である。今後の授業計画に含めて検討していく。

〈参考文献〉

I 市川則文（2010）:「平和と民主主義を大切にする教科としての誇りと自覚を」三重「個を育てる授業」研究会・山根栄次・市川則文編『個の育成をめざす授業』三晃書房，pp.146-151.

MI 三重大学教育学部附属中学校（1991）:『研究紀要　その子らしさが生きる授業 - 自らを高めていく自己評価と選択学習のあり方を求めて - 』第 15 集.

MI 三重大学教育学部附属中学校（2018）:『研究紀要　社会の変化に対応できる生徒の育成 - 対話的な学びによって資質・能力が伸びる授業 - 』第 29 集.

MI 三重大学教育学部附属中学校（2020）:『研究紀要　社会の変化に対応できる生徒の育成 - SDGs を核に資質・能力が伸びる取組をめざして - 』第 30 集.

YA 山根栄次（2010）:「優れた社会科の授業と総合学習 - 両者の共通性と関連を探る - 」山根栄次・市川則文・三重「個を育てる授業」研究会・編『個の育成をめざす 21 世紀の生活科・総合の授業づくり』三晃書房，pp.5-9.